

「たましいの戦い」

(ペテロの手紙第一2章11節～17節)

牧師：原 雅幸

序)「愛する者たち」～どんな困難にも負けずに～

- ・困難な時代と社会の真ん中で生き抜くために御言葉に立とう。
- ・2:11～「愛する者(神に愛されている者=1:1～2:10の凝縮)たち」との自覚を土台に、信仰者が生活の現場でどう生きるのかが語られる。

1)「たましいの戦い」に勝利しよう!

- ・「たましい」…肉(からだ)と霊(生まれながらに死んでいるが、福音によっていのちが与えられる)が統合されている人間の全体を指す。
- ・せっかく与えられた「たましいの救い」(=全体性の回復=両輪揃って、まっすぐ進むようになる状態。)を台無しにしようとする力がある。
- ・「肉の欲」=「肉に属そうとする欲」(霊を蔑ろにし、肉だけで幸せになろうとする心)が、たましいに戦いを挑む。
- ・「旅人、寄留者」=このからだは死ぬことを自覚して生きる者。だからこそ、肉に執着せずに身軽に生きることができる。この事実を忘れさせるのが「肉の欲」であり、そこから遠ざかるのが「たましいの戦い」。
- ・肉の欲を避ける(距離を取る:離れる)には、霊に属する(軸足を置く)こと(神との豊かな交わり)を求めれば(近づけば)よい。



2)「立派なふるまい」を勝ち取ろう!

- ・「立派にふるまう」=「美しい生活様式」
- キリスト信仰者として”美学”をもって生きよ!ということ。
- ・その人自身のメリット:聖霊なしには実現しないが、聖霊を体験できる。救いの奥深さの体験は、メインディッシュを食べるようなもの。
- ・周りの人へのメリット:神様が私たちの「美しい生活様式」を誰かに見せる時、神をあがめるようになる(=救われる信仰をもつに至る)
- *教会の伝道(2:9)と個人伝道(3:15)はアプローチが違う!

3)「美しい生き方」の勸所

- ・ペテロは「立派なふるまい」を事細かに指図しない。聖霊に聴きながら美しさは磨かれていくものだから。ただ勸所はおさえる。それが「従う」
- 絶対的服従の「従う」は神に対してのみ(1:2,14,22)。ここでの「従う」は「立場をわきまえ、踏み倒さない」こと。善悪の基準がずれた世界であっても、革命を起こさないこと。革命すべきは自分自身!

結) 聖霊の美学を発揮して生きよう!

- ・神の子の自由をもって「すべての人を敬い、兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を敬」おう。

名前()

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① あなたはどんな時に「神さまに愛されているな」と思いますか。

② あなたの身体や知性(頭)は、毎日成長していきます。あなたの霊(神様との関係)はどうでしょうか。そのわけは?

- () どんどん神様と仲良くなっていると思う
- () あまり変わらない感じがする
- () だんだん遠くなっている気がする
- () その他



理由

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

③ 自分の生き方がもっと美しくなるために、どうしたらいいでしょうか。神様と相談してみましよう。

～教会クイズ(教理問答)～

Q034 「きよい公同の教会」を信じるとは、どういうことですか。

A034 きよい公同の教会とは、いつの時代にも

いキリストの

さまによって招かれ、集められていることを信じます。

□ヒント□ マタイ 16:13-20、第一コリント 10:16-17、エペソ 1:22-23、4:1-6